



御 礼

認定NPO法人 ゆめ風基金
代表理事 牧口一二

震度7以上の激しい地震が続けて2度も起こるなんて。その間に身体に感じる揺れは絶える間もなく続くなんて。熊本から大分にかけての地域の人々は、さぞ生きた心地がしなかったことでしょう。

こんなとき、他者の助けが必要な我らの仲間の障害者たちはどうなっているんだろう？
うまく助けてくれる人と出会えただろうか？
孤立してしまって、喘いでいないだろうか？

被災した障害者をなんとしても支援したいと、阪神淡路大震災の6か月後に発足した「ゆめ風基金」スタッフは心配してしまいます。21年前の阪神淡路大震災では、辛いことに障害者市民はさまざまな場面で、ことごとく「いま、それどころではありません」と後回しにされてしまったからです。

わたしたちは永六輔さん、小室等さんたち多くの著名人から賛同が得られて、ふだんの緊急でないときにコツコツお金を集めておこう。そして、イザっという緊急時にドサッと活用させていただこうと「ゆめ風基金」を設立しました。

この21年間、おかげさまでたくさんのご寄付・募金を寄せていただき、およそ4億円を国内・海外の障害者仲間の緊急時に活用させていただきました。

そんな折の熊本を中心とした大震災です。

近畿ろうきんと預金者のみなさまから「サポートV」（東日本大震災復興支援定期預金）で10年間にも及ぶ多額のご支援をいただいている中で、さらに、熊本への救援募金も呼びかけていただくことになりました。一元でも儲ければ褒め称えられる資本主義社会にあって、社会貢献へ情熱を注がれ、このように、会員労働組合や利用者のみなさまへも協力を呼びかけていただいていることは、「近畿ろうきんは、現代版世界七不思議の1つでは」とも思えるほど、敬意と、感謝・感激で言葉ありません。

今回募金をしてくださったみなさま。みなさまのこの大切なお金につきましては、被災障がい者の救援のために、活きたお金として使わせていただくことをお誓いいたします。

ほんとうに、ありがとうございました。